

公の施設の指定管理者における業務状況評価

令和2年7月20日

施設名	高知青少年の家	所管課	教育委員会生涯学習課
-----	---------	-----	------------

1 施設の概要

指定管理者名	(特非)高知県青年会館	指定期間	平成27年4月1日～令和2年3月31日
施設所在地	吾川郡いの町天王北1-14		
業務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の利用の許可に関する事 ・施設及び設備の維持管理に関する事 ・青少年の活動が安全かつ円滑に行われるための支援に関する事 ・主催事業を計画し、実施すること <p><令和元年度主催事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子ガサガサ体験教室 ・親子陶芸教室 ・メモリアルアート教室 ・夏休み学習支援教室 ・高校生出前教室 ・夏休み親子ものづくり教室 ・はじめての手話教室 ・頭脳スポーツ大会 ・ドローン体験教室 ・親子キャンドル教室 ・折り紙飛行機教室 ・小学生パソコン教室(放課後居場所作り事業) 		
施設内容	<p>研修及び会議を計画する各種機関・団体・学校・グループ・サークル・企業等に施設を提供している。</p> <p>利用開始日:昭和63年6月1日</p> <p>施設面積:1,230.39㎡</p> <p>建築物:鉄筋コンクリート2階建</p> <p>施設概要:</p> <ul style="list-style-type: none"> 大集会室200名×1 研修室45名×3 会議室20名×1 和室20名×1 和室15名×1 視聴覚室50名×1 談話室(ホール) 		
職員体制	職員:所長1名 事務長1名 指導員2名 事務員1名 合計:5名 ※所長・事務長は青少年体育館と兼務		

2 収支の状況

(単位:円)

		H30年度(決算)	R01年度(決算)	R02年度(予算)
収入	県支出金	20,593,000	21,017,000	21,358,000
	事業費収入	66,600	52,500	64,000
	収入計	20,659,600	21,069,500	21,422,000
支出	事業費	576,087	451,739	590,000
	管理運営費	8,196,689	8,297,493	8,103,000
	人件費	10,227,406	10,382,863	10,782,000
	消費税	1,659,418	1,937,405	1,947,000
	支出計	20,659,600	21,069,500	21,422,000
使用料収入		774,920	710,920	687,000

3 利用実績

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	平均
利用者数	17,096	18,105	21,203	22,040	20,604	19,810
利用団体数	1,029	1,032	1,097	1,093	1,020	1,054

4 業務の評価

項目	施設からの状況説明に対する評価・意見
①利用拡大のための取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・新規事業を増やし、利用者の増加に尽力している。 ・地域環境を活用した事業を開発していることは評価できる。例えば、近くの仁淀川の自然を生かした取組として実施している「親子ガサガサ体験教室」は仁淀川清流保全推進協議会や県環境共生課、いの町と協力、役割分担して行っており、協働プログラムとしての一例になっている。 ・伊野南小学校の児童の放課後居場所づくりとして実施している、パソコン教室は各学期40名の募集で年間44回開催し、延べ461名の児童が参加するなど、ニーズの高い事業となっている。 ・「親子ものづくり教室」は、高校生が支援者となって「ものづくり」の楽しさを伝えるとともに、キャリア教育としての位置づけや高校側のPRも兼ねた取組であり、今後も参加者増に努めてほしい。
②利用者へのサービス向上のための改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・主催事業では、参加者に「ふりかえりアンケート」を実施し、その中で新たな事業ニーズをとらえるようにしている。 ・職員の資質・指導力向上のため、可能な限り研修会に参加できるよう取り組んでいる。 ・障がい者や高齢者に対しては、字の大きさ、段差など実質的な障壁や心理的な障壁を作らない、もたないを意識して業務に取り組んでいる。 ・利用者が気持ちよく施設を利用できるよう、環境美化に努めている。玄関を入ったところにある季節感のある掲示に、心配りが感じられる。 ・非常時の地域との連携を今後一層緻密なものにしてほしい。
③施設の運営について	<ul style="list-style-type: none"> ・いの町災害時避難所としては備蓄品やマニュアル等に不十分な点があることが分かった。今後、いの町との協議で改善をお願いしたい。 ・避難訓練を職員全員(5人)で行っているが、平常時に全員揃っていないこともあるので、実情に合わせた体制で訓練をする必要がある。 ・電気器具等のこまめな消灯、ごみの分別等に取り組み、エコオフィスづくりに努めている。 ・施設内の草刈り等を職員が行うことで、環境整備の意識向上だけでなく、経費削減にもつながっている。
④利用実績	<ul style="list-style-type: none"> ・目標に設定していた利用者20,000人は達成しているが、利用実績は減少している。 令和元年度の利用者数は20,604人(3期連続20,000人を突破)、利用団体数は1,020団体であった。

⑤収支の状況	
総合評価	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校や地域との連携、職員の指導に熱心に取り組んでいる。 ・利用者が施設を気持ちよく利用できるよう、すみずみまで心配りがなされている。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、行事の参加人数の制限を余儀なくされながらも、その分回数を増やすなど、臨機応変に対応している。 ・青少年教育施設として仕様書に定める内容や目標を十分に達成している。

- 【評価の目安】
- A:仕様書の内容や目標を上回る成果があり、優れた管理運営が行われたもの
 - B:おおむね仕様書の内容どおりの成果があり、適正な管理が行われたもの
 - C:仕様書の内容や目標を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要なもの
 - D:管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善を要するもの

※「施設からの状況説明に対する評価・意見」欄には、各施設の品質向上及び利用者拡大に向けて、①から⑤までの項目に沿って、努力成果が見える点や改善が必要だと感じる点、その他特記事項をご記入ください。

また、他の参考になるような業務改善の取組については、総合評価欄にご記入ください。